



《会津の冬(21)柳津》1974年 紙、木版

2025年度  
冬季企画展

# 斎藤清と写真

2026.1.6<sup>火</sup>—3.29<sup>日</sup> 9:00~16:30  
(入館は16:00まで)

休館日／月曜日(ただし、1月12日、2月23日は開館、1月13日、2月24日は休館)

観覧料／一般510円(410円)、大学生・高校生300円(200円)、小中学生無料※( )内は15名以上の団体の場合

それは語りだす。  
彼が出会った人  
彼が目にしたもの  
そして、  
その想い、生きざまも。



柳津町内にて、スケッチをする斎藤清 1970年頃(撮影者:鈴木尋士)

斎藤清  
美術館  
KIYOSHI SAITO  
MUSEUM OF ART, YANAIZU

主催・やないづ町立斎藤清美術館

後援:福島民報社、福島民友新聞社、NHK福島放送局、福島テレビ、  
福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、  
ふくしまFM、エフエム会津、喜多方シティエフエム、  
只見川電源流域振興協議会、奥会津五町村活性化協議会、  
只見川ライン観光協会、極上の会津プロジェクト協議会



05



06

海外のファンに支えられて



01



07



08

画家のまなざしが向かう先



09



02



03

会津、家族



10



11

描き、彫り、摺る



12



04

当館は、作品とともに斎藤清にまつわるものを数多く収集保存しています。中でも斎藤清研究において欠かせないのが、写真や映像資料です。メキシコやフランスなど訪れた先々で目にした風物、様々な人たちとの出会いと親交、そして、雪原の中で、あるいは版木に向かい、一心に創作に打ち込む斎藤清自身の姿。往時の様子をリアルに伝えるそれらには、その時の斎藤が抱いていた関心や想いまでもが留められており、画家や作品への理解を深める重要な手がかりとなっています。さらに、1959年の渡仏時に通訳兼案内を務めたフォトジャーナリスト・高田美(たかた・よし)、斎藤が深い信頼を寄せた森角勝(もりかく・まさる)など、写真家たちとの交流は斎藤の画業に大きな影響を及ぼしました。そうした「写真」と斎藤清の関係を、当館が保管する写真・映像資料及び関連作品とともに紹介します。

【作品】

- 01.《凝視(猫)》1948年 紙、木版
- 02.《インディアンの村にて、ニューメキシコ(グリーティングカード)》制作年不詳
- 03.《パリ 広告塔(1959年12月)》1989年 紙、木版
- 04.《会津の冬 坂下》1940年頃 紙、木版

【写真】

- 05.【斎藤清版画展】会場(たぐみ工芸店)にて 1950年(撮影者:不明)
- 06.首相官邸にて、佐藤栄作首相とスケッチをする斎藤清 1966年(撮影者:不明)
- 07.パリにて 1959年(撮影者:斎藤清?)
- 08.サンタフェにて 1956年(撮影者:斎藤清?)
- 09.柳津町内にて、スケッチをする斎藤清 1979年(撮影者:鈴木尋士)
- 10.鎌倉市西御門の自邸にて、版木を彫る斎藤清 1975年(撮影者:鈴木尋士)
- 11.板橋区茂呂町の自邸にて、《嫉妬》(1952年)を制作する斎藤清 1953年(撮影者:ホーレス・プリストル)
- 12.母ルイと7歳頃の斎藤清 1914年頃(撮影者:不明)

斎藤清美術館  
KIYOSHI SAITO MUSEUM OF ART, YANAIZU

〒969-7201  
福島県河沼郡柳津町柳津字下平乙187  
☎0241-42-3630  
✉bijutsu@town.yanaizu.fukushima.jp

アクセス

☑東北道→磐越道→会津坂下I.C→  
R252を只見町方面へ5km(道の駅会津柳津内)  
☑東京駅(東北新幹線)→郡山駅(磐越西線)→  
会津若松駅(只見線)→会津柳津駅

